

なゆたん通信

🌸 スキンシップについて 🌸



スキンシップとは肌と肌との触れ合い。また、それによる心の交流を意味します。

言葉だけではなく「抱きしめる」「手を握る」「頭を撫でる」などスキンシップを取ることも重要です。

体温のぬくもりや心臓の鼓動を聞くことで、子どもは安心し、守られている、愛されていると感じることができます。

その中でも手をつなぐということは重要な意味を持ちます。胎内では子供はへその緒でつながっていましたが、生まれるとへその緒と共に母親とのつながりが切れてしまいます。つまり手をつなぐことは母親とへその緒で繋がっているのと同じくらいの意味があるということです。なので子供から“もう放してくれていいよ～”と成長するまではたっぷり手をつないであげてもいいのかもしれない。

言葉に出して褒めることが苦手という方は、スキンシップを多くすることから始めてみてもいいかもしれません。

減点主義



加点主義

「これもできないの？」
「あともうちょっとやったね」



「〇〇できるようになったね」
「前より早く片付けられるようになったね」

褒めるポイントとしては前回 15号に記載させていただきましたが、他に重要だと思うのが**物事を減点主義ではなく加点主義で捉えるということ**です。「これもできないの？」ではなく「〇〇できるようになったね」というようにできた

ことを見つけて褒めるようにしています。減点主義から加点主義に考え方を切り替えると、おのずから褒めるべきポイントが見えてくると思います。褒めることによって子どもの新しい力は定着していくと思います。

その子自身の3日前、1ヶ月前、半年前、1年前のように過去の状態と比較して、よくなった部分を具体的に褒めていきます。つまり比較対象は、**同世代の他の子たちではなく、常に過去のお子さん自身**というわけです。一人でご飯を食べることも、着替えることも、片付けることも何もできなかった子どもがいろいろできるようになっています。そして**「できたこと」を当たり前にしないうことも大切**です。日頃の子どもたちの頑張りにも着目してあげたいと思います。

何よりも大好きな お父さん・お母さんに褒められるのが子どもにとって一番のご褒美。
子どものモチベーションにもつながると思います！



次回第 17号も『褒める』シリーズ続きます・・・